

倫理，政治・経済

I 次の文章を読み，下の問に答えなさい。

マンデヴィルとルソーは，虚栄心や憐憫が文明を発展させるメカニズムを解明した点で，ホッブズをはじめとする17世紀の道徳論からは一線を画したが，それらの情念と社会性・公共性との関係を，反自然的な逆説としてしか肯定することができなかった。これに対するスミスの立場は，人間本性の中に社会をなして他人と結合するように要求するある原理が存在することを証明することであり，自然の諸情念による文明社会発展のメカニズムを説明することであった。

企画家たちは人間の事柄における自然の働きの進路において自然を攪乱するのであるが，自然が要求するのは自然をそのままにしておき，自然が自分自身の目的を達成できるように，自然の目的追求においてフェアプレイをさせること^(a)以上ではない。

ここにスミスの主著である『国富論』の根本思想が簡潔に表現されている。スミスの「自然」概念は，自然法という法学的概念にとどまらず，未開から文明へと必然的に進歩する人間社会の基本原理としてとらえられている。それは，政治家や立法者が，諸個人の自由な経済活動の成果である社会秩序を国家の高みから設計し管理することによって，文明社会と市場経済の自由で自然な活動を抑圧する結果をもたらした当時のヨーロッパにおける支配的な思想と政策に対する根本的な批判であった。

人間がどれほど利己的なものと想定されうるとしても，あきらかに彼の本性の中にはいくつかの原理があって，それらは，彼に他の人びとの運不運に関心を持たせ，かれらの幸福を，それを見るとき喜びのほかには何も引き出せないのに，彼にとって必要とするのである。

スミスによれば、人間の本性には利己心とならんで、「同胞感情」や「共感」がある。「共感」は、ルソーの「憐憫」とは異なり、他人の苦しみや悲しみに対してだけでなく、他人の喜びや快楽に対しても作用する。「共感」とは、他人の感情についてゆくことである。他人の言動を道徳的に是認することは、その人の立場に自分の身を置いて考えてみた場合に、それに完全に共感することである。スミスにとって各個人の言動の道徳的適切さの基準は他人の共感的情念であるが、この情念が公共的な適切さを持つためには、それが「公平な観察者」の視点からなされなければならない。^(b) すべての人びとは、日々の生活の中であるときは行為者として、あるときは観察者として、たえずその立場を変えながら、互いの言動に対して道徳判断を下しながら暮らしており、その繰り返しと積み重ねのなかで、安定した道徳秩序が創り出される。こうしてスミスの道徳論は、行為者、観察者双方が「公平な観察者」の視点に基づいて行動し、判断することによって、一つの社会秩序が自生的に成立してゆく論理を説明するものである。

(坂本達哉『社会思想の歴史』、名古屋大学出版会、2014年より抜粋、ただし文章は一部変更)

問 1 下線部(a)の自然の目的追求における「フェアプレイ」とは何か、本文全体の論旨をふまえ、かつスミス理論の独自性を明確にしつつ、説明しなさい。(300字以内)

問 2 下線部(b)の「公平な観察者」とは何か。またこの用語の意味を詳しく論じているスミスの著作は何か。(100字以内)

II 次の文章を読み、下の問に答えなさい。

選挙は、民主政治の基盤をなすものであり、選挙が公正に行われなければその健全な発達を期することはできない。このことは、国民一人ひとりが、政治や選挙に十分な関心を持ち、候補者の人物や政見、政党の政策を判断できる目を持ち、自分の一票を進んで投票することをもってはじめて達成できるものである。

(中略)

新しい主権者像のキーワードの一つは、「社会参加」であろう。知識を習得するだけでなく、実際に社会の諸活動に参加し、体験することで、社会の一員としての自覚は増大する。結果として、主権者としての資質・能力を高めることとなる。社会的参加意欲が低い中では政治意識の高揚は望めない。

近年の若い世代は、リアルな人間関係の減少、地域のコミュニティ機能の低下、知識の習得を重視した学校教育等のために、以前に比べると社会化(名実ともに社会の一員に成ること)が遅れている。さらに、家庭内の教育力も低下し、政治への関心など意識の面でも世帯間の格差が固定化する傾向がある。彼等を取り巻く環境は急速に変化し、非正規職員の増加、世帯間の経済格差の固定化、非婚化・晩婚化など厳しい問題に直面している。早いうちからボランティアやインターンシップなどを通じて社会に参加し、その中から自分の働き方や生き方を考えることが必要である。

(中略)

新しい主権者像の二つ目のキーワードは、「政治的リテラシー(政治的判断力や批判力)」であろう。政治的・社会的に対立している問題について判断をし、意思決定をしていく資質は社会参加だけでは十分に育たない。情報を収集し、的確に読み解き、考察し、判断する訓練が必要である。

しかし、わが国の学校教育においては、政治や選挙の仕組みは教えるものの、政治的・社会的に対立する問題を取り上げ、政治的判断能力を訓練することを避けてきた。

また、高齢者は、確かに投票義務感は高いが、政治的リテラシーについても果たして十分に備わっていると言えるであろうか。平成6年に選挙制度が改正され、候

補者個人よりも政党を重視して投票する人が増えてきたが、最近の選挙を見ると、利根的な話題や一点集中的な報道に左右される例が少なくない。また、地方選挙の中には、高齢者の投票率も非常に低いものがある。高齢者も意識を高く持ち、政策はもちろん、人の選択に関しても、人物や見識を吟味し、国政だけでなく、地方政治に対しても将来を見据え、主権者としての責務を果たしていく必要がある。多くの政策課題の中には世代間の対立を招く恐れのあるものもあるが、それを乗り越えて適切な選択を行っていくためには、若い世代だけでなく高齢者も、日頃から学び続け、政治的リテラシーを高めることが必要である。

(常時啓発事業のあり方等研究会・最終報告書「社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を目指して 平成23年12月」から抜粋)

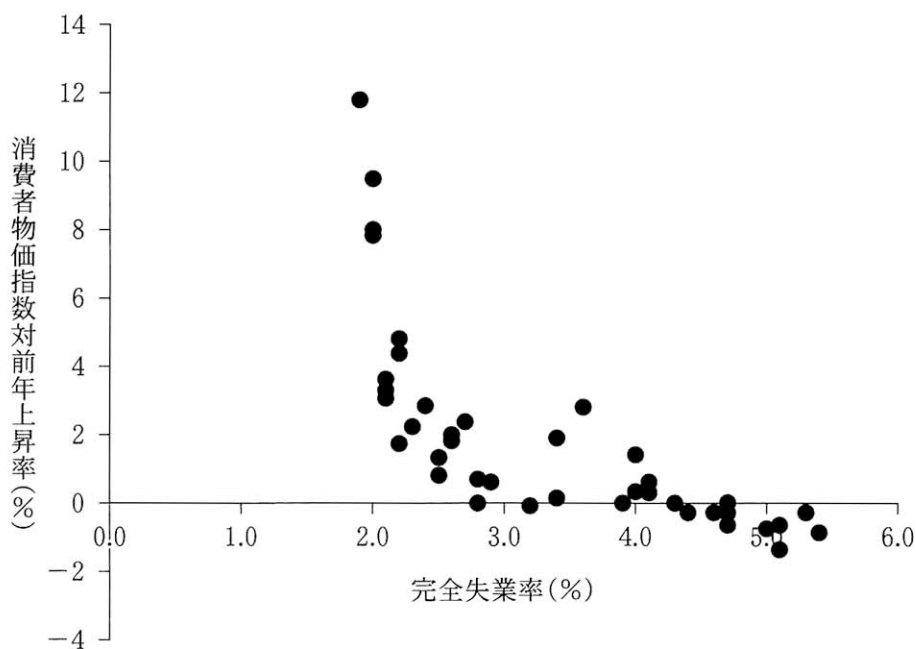
問 1 下線部①に関連して、選挙を公正に行うために必要とされる原則(選挙の原則)の内容を説明しなさい。また、それらの選挙の原則を巡って、現在の我が国において課題となっていることを複数挙げて説明しなさい。(200字以内)

問 2 下線部②に関連して、現在の我が国の衆議院においては複数の選挙区制度が組み合わされているが、それぞれの制度について説明しなさい。また、それぞれの制度の長所及び短所として考えられている点についても併せて説明しなさい。(200字以内)

Ⅲ 次の文章を読み、下の問に答えなさい。

図Ⅲ－１は、日本の1975年から2014年までの各年の完全失業率と消費者物価指数対前年上昇率を表している。このように、失業率とインフレ率との間に負の相関が観察されることがある。図をみながら、AとBの二人が以下の会話をしている。

図Ⅲ－１：完全失業率と消費者物価指数対前年上昇率



出所：総務省統計局「労働力調査結果」および「消費者物価指数」を加工して作成

A：この負の相関を経済学的に説明してみます。いくつか考え方はありますが、代表的な説明は次のようなものでしょう。それは、「金融緩和政策などによって、予期せぬ通貨価値の下落が引き起こされたとする。これによって物価や賃金が上昇する。しかし、貨幣錯覚といって、労働者は物価上昇よりも自分の賃金上昇を敏感に感じることもある。そのせいで、失業率が下がる」①というのです。

B：失業率が下がるのはいいことかもしれないけど、どうして失業率が下がるの？

A：労働者の事情に着目して考えてみると、ある程度納得がいきますよ。

B：そうなんだ。でも、貨幣錯覚から醒めたらどうなるの？

A：いい質問です。失業率や景気は②どうなるのでしょうかね。まずは、さっき言った代表的な説明をもとに考えてみてください。ただし、それがいつも現実に妥当するわけではないので、現実経済でなにが起きるか断言したり予言したりはできません。

B：景気予測もできないの。

A：いいえ、そういうわけではありません。いろいろな経済学的な考え方を理解することによって、今後どのようなことが起きうるのか、複数の可能性を事前に考察することができるのです。これはとても大事なことですよ。

ただ、勇み足になりかねないので、断定的な景気予測はしないだけです。

問 1 「実質賃金」とはなにか、簡潔に説明しなさい。(50 字以内)

問 2 下線部①では、金融緩和政策によって失業率が低下すると結論づけられている。Aが紹介したカギカッコ内の説明にそって、その理由を述べなさい。(100 字以内)

問 3 Aが紹介したカギカッコ内の説明をふまえ、下線部②のように貨幣錯覚がとけたときには、どのようなことが起きうるのかを説明し、またそれが社会経済に与える影響についてどのようなことが考えられるのか、あなたの考えを論理的に述べなさい。(250 字以内)